

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700147
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム銀河
所在地	愛媛県大洲市徳森1477番地1
自己評価作成日	平成21年9月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 10 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

代表者が医者であり、医療面での相談や受診・往診により利用者の健康管理がすぐに対応出来るようになっており、安心した生活が出来るようになっている。又、水害や災害に備え、月1回の防災ミーティングを開いて防災に対する意識を高めて、対応できるようにしている。 利用者の様子やホーム内の様子・情報等を掲載した新聞を作り、地域に回覧してつながりを持ち、付き合いができるようにしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム設立後9年目を迎え、地域密着型のケアを目指して全職員で理念の再構築をしている。ホームでの生活の長い利用者の身体レベルは低下傾向にあるが、利用者が出かけにくい分、利用者の家族を通じて近隣の小学校に働きかけ、児童や保護者等の訪問につなげるなど、地域等との交流機会の確保に努めている。運営推進会議で出た課題にも素早く取り組み、防災ミーティングや避難訓練を実践したり、ケアの質の向上を図る研修会で職員が交互に講師役を務めるなど、レベルアップに向け積極的に全職員で取り組んでいる。家族に利用者の日頃の様子を理解してもらう工夫として、ケアプラン(長期目標・短期目標、援助内容)を居室に掲示している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム銀河

(ユニット名) 第一ユニット 5階

記入者(管理者)

氏 名 富永喜代香

評価完了日 平成 21年 9 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「人それぞれが残存能力を生かして地域とのふれあいを大切にしながら自分らしく生活が送れるよう支えていく」という理念のもと地域との交流をもちながら取り組んでいる。 (外部評価) 法人の理念を踏まえながら、地域密着にも視点を置いたホーム独自の理念を管理者及び職員で構築するとともに、毎年度の目標も設定し、実践に向けて努力している。また、業務カンファレンスやケアカンファレンスで実践状況を確認し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の清掃に参加したり保育園園児や学校の生徒さんとの交流がある。又、回覧板を回して頂いており交流を持っている。 (外部評価) ビルの3階と5階部分にホームがあるため、地域とのつながりという面では難しい部分もあるが、地域の盆踊りや清掃活動への参加や、近隣小学校からの児童や保護者の訪問受け入れ、ボランティアの受け入れ等により交流を図っている。また、回覧板等からも地域の情報を得るよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ホームの新聞に認知症について掲載したものを回覧板で回して頂いたり、会社では職員が講師となりヘルパー養成講座を開催している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議ではホーム内の様子やサービスについて 報告したり構成員より率直な意見や要望もありそれを サービスの向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議開始当初は意見や要望がやや出にくかつ たが、回を重ねるごとに防災、地域との交流、ホーム 内の改善点等、活発な意見が出るようになってきてい る。出された意見等を活かしてサービスの向上につな げている。	更に多くの意見や要望を出してもらい、会議を充実さ せるためにも、固定化している参加者以外に、地域包 括支援センター、家族会代表者以外の家族等も参加で きるような働きかけや、職員が交代で参加するといっ た取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議以外にも、市のサービス担当者会を開催 して頂いており情報交換をしたり介護保険制度等の説 明を受けている。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加している市担当者からアドバイス 等を受けることで、連携を図っている。また、市主催 のサービス担当者会議に出席して情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会等で身体拘束を行わないケアについて職員で理 解し、さり気ない声掛けや一緒に同行するなど安全面 に配慮しながら工夫して身体拘束をしないケアに取り 組んでいる。	
			(外部評価) 拘束について、ホーム内で勉強会を開き、全職員で身 体拘束のないケアの実践に向けて取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 何が虐待なのかを職員で認識して注意を払うようにしている。又、定期的に勉強会を開き虐待防止の徹底に努めていきたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会があれば積極的に参加して学ぶ機会をもっている。定期的に勉強会を開いて周知出来るようにしたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前に見学や訪問をして頂きホーム名を見て頂き不安をなくし契約時には十分な説明を行い理解・納得が得られるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱の設置をしている。面会時などの家族様の声を大切にして対応している。介護相談員の訪問があり、相談出来るような体制になっている。 (外部評価) 運営推進会議や家族会を利用して家族の意見や要望を聞き取るよう努めている。介護相談員を受け入れており、直接意見が出しにくい利用者がある場合の体制も整えている。利用者については、日頃のケアの中での会話や態度から職員が思いを把握している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ホーム長会議での内容を業務カンファレンスで報告するうにして、意見や提案を聞く環境を作っている。 (外部評価) 職員会議で職員の意見を集約して、施設長が運営法人に伝えており、利用者の身体状況に合わせたギャッジベッドの導入や、風呂場への手すり設置等の意見が採用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の努力などから研修会の参加への配慮や向上心が持てるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 習熟度の応じた研修会に参加している。法人内研修や勉強会を開きスキル向上に向けて知識を高めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ネットワークづくりまでは行かないが、市内グループホームで相互訪問をして、お互いの情報交換の場となっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 御本人が安心して頂けるように話を傾聴して不安を無くすようにしている。声掛けや話し方、ト音、目線等に留意するようにして信頼関係を築くようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の意向や不安、困っている事等を聞いて安心して頂けるようにしている。面会時等に聞いたり、日頃の利用者の様子を報告するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要なサービスや支援を明確にして担当のケアマネジャーと話し合うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩であることを忘れずにこれまでの経験や知識を参考に、利用者様から学ぶ事も多く支え合う事の大切さを職員で話し合っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様の協力を得ながら、日頃の様子や状態を報告して家族様の意向を受け止めて信頼関係に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の様子を写真にして手紙を送ったりしている。 自宅近くへのドライブをするなどした。	
			(外部評価) 入居者は近隣出身の方が多く、家族等の来訪も頻回にあり、馴染みの人との関係が継続できている。遠方の家族や来訪の少ない家族等については、利用者の様子を写真で知らせるなどしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの個性を把握し利用者の間に入りより良い関係が作れるようにしている。利用者の様子を見守りする方もおられお互いが支え合っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者が死亡されて契約が終了することがあり継続的な関わりは出来ていない。 入院された場合にはお見舞いに行くようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃の会話や様子から本人の意向や思いを記録に残しカンファレンス等で活用している。困難な場合には表情などから読み取りようにしている。 (外部評価) 日々の会話や行動などから思いを把握するよう努めている。「かかわり委員会」を設け、利用者と一緒に身体を動かしたり会話することを中心に関わりを密にし、関わりの中で得た情報を他の職員にも伝え、思いや意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査等でお話を聴き情報収集をしている。馴染みの物や家族様からの話の中からケアに繋げている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 健康管理をしながら、出来ること出来ない事の把握に努め、記録に残して把握するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月一回、ケアカンファレンスを行い意見の交換や提案をして計画を立て職員で共有している。 家族の意向や要望も取り入れるようにしている。 (外部評価) 利用者の担当職員が介護計画の案を立て、ケアカンファレンスで全職員が検討している。3階のユニットでは居室内に長期目標・短期目標・援助内容が個別に掲示されており、家族や職員が随時確認できるようになっている。	介護計画や援助内容の掲示は家族にとって安心感に繋がる取り組みであり、さらに家族の意見や要望を知るために、家族の希望等を記入してもらう欄を追加する等の工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録をするようにしている。利用者の声や言動を残して計画の見直し等にも役立てている。 経過観察記録への記入も行い把握に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人様や家族様の希望に応じた対応をしている。 受診の送迎等必要な支援には柔軟な対応をしている。 出張理容やかかりつけ医等の利用がある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 消防署立会いによる避難訓練やボランティアによる訪問等楽しむ事が出来るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月2回の往診と必要に応じて受診の対応をしている。 歯科や皮膚科への医療機関とも適切な医療が受けれる ようにしている。	
			(外部評価) 法人代表者が医師であり、地域医療に積極的に取り組 んでいるため、利用者とは入居前からかかりつけ医と しての関係ができています。月2回の往診など、必要に 応じて対応している。専門外の歯科・皮膚科等につい ても連携体制を整備して、適切な医療を受けられるよ うに支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 診療所の看護師への状態報告を行うと共に、適切な指 示や助を頂いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院までの経過や生活の状況を情報提供し治療の参考 資料にして頂き、退院時にはサマリーをもらって、注 意点、気を付ける事等助言をもらっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期に関する指針を定め契約時に説明を行うように している。利用者の状態の変化がある毎に家族や本人 の希望をにに応じて対応している。	
			(外部評価) 法人のバックアップを受けながら、重度化や終末期の ケアを実践している。管理者は、看取りの経験から家 族の理解や協力の必要性を痛感しており、日頃から家 族と話し合いを密にしている。また、毎月行っている 内部研修のテーマの中にも、健康状態の把握、緊急時 の対応、介護技術等を取り入れ、看取りに関するケア の質を高めるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 普通救命講習を定期的に受講して応急処置や緊急の処置が出来るようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署立会いによる避難訓練や自主訓練を行い対応出来るようにしている。又、防災ミーティングを行い避難の方法や知識を身につけるようにしている。 (外部評価) ビルの3階と5階にあるホームのため、災害については日頃から特に気を配っている。年間の防災ミーティング計画を立て、消防署と連携を密に取り、屋上までの避難訓練や、防災備品のチェック等を実施している。地域との交流を深め、地域の協力を得られるように取り組んでいく予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人情報漏洩防止について誓約書を交わしプライバシーの保護を徹底をしている。さり気ない声掛けや声のト音などに留意して対応している。 (外部評価) ホームでの生活も年数を経過し、車いすを使う利用者も増えているが、一人ひとりの思いを理解し、それぞれできることをしてもらいながら、誇りやプライバシーに配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 声掛けには本人のペースに合わせた対応をして、自己決定出来るように働きかけ、提案をして場面作りをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の体調に合わせて対応するようにしている。 身体介護の必要な利用者様が多く個々の希望に添うことが難しくなっているが、一人ひとりに合わせた支援が出来るようにしたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出張理容を利用しながらカットを行い配慮している。 服や着替えもさり気ない声掛けを行い清潔に心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材の下準備を一緒にしたり、食事中には職員が間に補助やサポートを行いゆっくり食事が出来るよう会話も楽しむようにしている。 (外部評価) 食事は「楽しく」をモットーに、笑顔で会話の多い食事をしている。身体レベルの低下により準備等の手伝いができる利用者は少なくなっているが、材料の下準備や片付けなどをお願いしている。5階のユニットは、一対一の介助が必要な方が半数以上であるが、それぞれのペースに合わせた援助をしながら、他の利用者にも笑顔で声をかけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の摂取量や食べやすい大きさなどを把握しており体調や状況に応じて調整をしている。夜間はお茶を常備される利用者もおられ摂取量に注意をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きの声掛けやうがい薬によるうがいや定期的に義歯の洗浄を行い清潔を保つようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 身体介護が多い利用者様の自立した排泄は難しいが自立している方には排泄パターンを把握して声掛けをしている。失敗があってもさり気ない声を掛けている。 (外部評価) 身体レベルの低下によりおむつを使う利用者が増えていますが、利用者それぞれの排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄してもらえよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動や散歩を取り入れたり水分の摂取を把握して、飲むジュースや果物なども取り入れている。腹部マッサージも行い排泄を促している。慢性的な便秘には医師の処方による薬で対応する事もある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々の体調に合わせて入浴出来るようにしている。意思決定も難しい利用者もおられるが出来るだけ入って清潔にしている。入浴時の会話も大切にしている。 (外部評価) 利用者の希望に添って、午前と午後に分けて、担当職員を決めて入浴している。利用者ごとに入浴日を決めているが、入りたい・入りたくないなど、利用者のその時々思いにも柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調に合わせて休息を取り入れている。暖かい飲み物を飲んで安眠出来るように配慮している。時間ごとに体位交換をして安眠、体位の工夫をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書や医師の指導により薬の用法、副作用に注意し利用者様の体調を管理するようにしている。 飲み忘れや誤薬の無いように細心の注意をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ドライブや買い物など外出する機会を作っている。 役割をもてる方には洗濯物たたみや料理の下ごしらえをして役割をもって生活出来るように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 庭が無い為日常的には外に出ることは少ないが、花をみたり、水やりをしたりする事はある。 出かける機会があれば利用者様と同行して出かける事もある。	
			(外部評価) 車いす利用者が増え、外出にはボランティアや家族の協力が必要なため、以前より外出の機会が少なくなっている。車いす用体重計が無いため、近隣の老人保健施設に測定に行く機会を利用してホーム周辺を散歩したり、スーパーでの買い物やドライブ、行事での外出等を楽しむなど、戸外に出かけられるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 所持希望の方がおられないが、買い物の際には、職員が所持して支払いをしている。お金を出せる方に出していただけるようにしたい。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば支援していきたい。 以前より手紙や葉書を書く事が減っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 天窓からの採光があり明るく、また自然の風が入る様にしている。音や刺激を避けて居心地よい空間を配慮している。	
			(外部評価) ビルの中にあるホームであるが、内に入ると家庭的な雰囲気のある空間となっている。3階と5階はそれぞれに雰囲気は異なるが、居心地良く過ごせ、季節感も感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファーに利用者同士が座り、お互い話しかけたりしてくつろげるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人のタンスや趣味の物を置いたり家族の写真を飾り居心地よく過ごせるようにしている。	
			(外部評価) それぞれの身体状況に合わせて、使いやすいベッドにしたり、本人が落ち着いて過ごせる使い慣れた物が置かれている。家族が訪問しても居心地良く過ごせ、日頃の生活がわかるように、写真や援助内容の掲示もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内部は狭い為活かす事が出来ないが、狭い空間を利用している。自室入り口には名前や写真を張り分けるようにしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700147
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム銀河
所在地	愛媛県大洲市徳森1477番地1
自己評価作成日	平成21年9月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 10 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日のバイタルチェック・食事・排泄の管理や医師の定期的な受診や往診があり、利用者様の体調管理を行っている。又、お誕生日会やお花見や夏祭り、月見・ドライブ等毎月の行事や家族様の方にも声をかけ一緒に参加して頂いている。 毎月1回の防災ミーティングを行い訓練等をおこなっている。地域の消防団の方にもホームに中を見ていただいている。 勉強会も毎月テーマを決めて職員が行っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム設立後9年目を迎え、地域密着型のケアを目指して全職員で理念の再構築をしている。ホームでの生活の長い利用者の身体レベルは低下傾向にあるが、利用者が出かけにくい分、利用者の家族を通じて近隣の小学校に働きかけ、児童や保護者等の訪問につなげるなど、地域等との交流機会の確保に努めている。運営推進会議で出た課題にも素早く取り組み、防災ミーティングや避難訓練を実践したり、ケアの質の向上を図る研修会で職員が交互に講師役を務めるなど、レベルアップに向け積極的に全職員で取り組んでいる。家族に利用者の日頃の様子を理解してもらう工夫として、ケアプラン(長期目標・短期目標、援助内容)を居室に掲示している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム銀河

(ユニット名) 第二 ユニット 3階

記入者(管理者)

氏 名 田渕正子

評価完了日 21 年 9 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 銀河全体の理念、3階の理念を職員で考え実践している。	
			(外部評価) 法人の理念を踏まえながら、地域密着にも視点を置いたホーム独自の理念を管理者及び職員で構築するとともに、毎年度の目標も設定し、実践に向けて努力している。また、業務カンファレンスやケアカンファレンスで実践状況を確認し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事が分かるように回覧板を廻して頂き、地域の清掃や学校行事、公民館にも顔を出している。	
			(外部評価) ビルの3階と5階部分にホームがあるため、地域とのつながりという面では難しい部分もあるが、地域の盆踊りや清掃活動への参加や、近隣小学校からの児童や保護者の訪問受け入れ、ボランティアの受け入れ等により交流を図っている。また、回覧板等からも地域の情報を得よう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、区長さんに参加して頂き、施設のことや利用者の子とを理解してもらい色々な意見を交換している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、地域の方々に来て頂いている。メンバーから率直な意見を出して頂きサービスの向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議開始当初は意見や要望がやや出にくかったが、回を重ねるごとに防災、地域との交流、ホーム内の改善点等、活発な意見が出るようになってきている。出された意見等を活かしてサービスの向上につなげている。	更に多くの意見や要望を出してもらい、会議を充実させるためにも、固定化している参加者以外に、地域包括支援センター、家族会代表者以外の家族等も参加できるような働きかけや、職員が交代で参加するといった取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市のサービス担当者に出席しており、そこで情報を交換している。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加している市担当者からアドバイス等を受けることで、連携を図っている。また、市主催のサービス担当者会議に出席して情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の内容をよく知り、人権を守りながら介助を行っている。身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 拘束について、ホーム内で勉強会を開き、全職員で身体拘束のないケアの実践に向けて取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会で虐待について学び何が虐待かを注意しながら防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会や勉強会で学びこれから必要と思える利用者様、家族様に説明し、活用して頂ける様にしたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に説明を行い同意を得ている。入居前に見学や訪問をして頂いて理解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議の家族様代表の方が出席されていて、意見を言ってもらったり面会に来られた時に家族の方に意見を聞いている。 (外部評価) 運営推進会議や家族会を利用して家族の意見や要望を聞き取るよう努めている。介護相談員を受け入れており、直接意見が出しにくい利用者がある場合の体制も整えている。利用者については、日頃のケアの中での会話や態度から職員が思いを把握している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファレンスで意見を聞く機会を設けている。 (外部評価) 職員会議で職員の意見を集約して、施設長が運営法人に伝えており、利用者の身体状況に合わせたギャジベッドの導入や、風呂場への手すり設置等の意見が採用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 向上心をもてるように、研修参加で着るよう配慮して頂いている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 会社全体の研修会を設けたり職員に応じた研修会の参加の声掛けをしている。勉強会でも色々対応出来るよう幅広く勉強している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市の研修会やグループホーム協会などで、情報交換をしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 初期にアセスメントを行い信頼関係を作れるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ホームに来て頂きコミュニケーションを図り要望を聞 いて安心して出来るように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) ケアプランの作成センター方式を利用してサービスの 向上に向け利用者様が何を必要としているかを伺うよ うにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 利用者様の出来ることを日々の生活の中で見極めて一緒 に行っています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者様のお様子を話し合った記録を送付したり面会 時に話をして関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 面会、外出など自由に出来るようにしている。お盆や 正月など外出外泊出来るように声を掛けている。 (外部評価) 入居者は近隣出身の方が多く、家族等の来訪も頻回に あり、馴染みの人との関係が継続できている。遠方の 家族や来訪の少ない家族等については、利用者の様子 を写真で知らせるなどしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) フロアーで一緒にコミュニケーションや行事を行いお互い支え合いが出来るように心掛けている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者様が亡くなられる場合はその後の関係が少ない場合がある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 自分で出来ることをして頂いている。困難な場合はさり気ない声掛けをして支援している。今までの生活を知りその人らしい生活を送ってもらえるようにしている。 (外部評価) 日々の会話や行動などから思いを把握するよう努めている。「かかわり委員会」を設け、利用者と一緒に身体を動かしたり会話することを中心に関わりを密にし、関わりの中で得た情報を他の職員にも伝え、思いや意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査やセンター方式を活用している。面会時に来られた方々にお話を伺うようにしています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の出来ること出来ないことを日々観察して把握に努めている。記録や日誌に目を通して分かるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月一回ケアカンファレンスを開いてケアプラン作成をしている。家族、職員の意見を交えてそれに沿ってケアを行っている。 (外部評価) 利用者の担当職員が介護計画の案を立て、ケアカンファレンスで全職員が検討している。3階のユニットでは居室内に長期目標・短期目標・援助内容が個別に掲示されており、家族や職員が随時確認できるようになっている。	介護計画や援助内容の掲示は家族にとって安心感に繋がる取り組みであり、さらに家族の意見や要望を知るために、家族の希望等を記入してもらう欄を追加する等の工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録している。ケアカンファレンスで話し合い計画の見直しに活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族の希望がある場合、希望に添えるように行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティア、地域の理容院、医院、消防団、学校関係の力を借りた取り組みを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 開設者が主治医であり安心して医療が受けられる。ま た専門外の医療は家族様と相談して適切な医療が受け られるように支援している。 (外部評価) 法人代表者が医師であり、地域医療に積極的に取り組 んでいるため、利用者とは入居前からかかりつけ医と しての関係ができています。月2回の往診など、必要に 応じて対応している。専門外の歯科・皮膚科等につい ても連携体制を整備して、適切な医療を受けられるよ うに支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 診療所より電話が入り状態を報告している。場合によ り往診に来て頂いています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際は情報提供を行い家族様への連絡、入院中 のお見舞いや退院時の指導を受けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重症化した場合、医師の診察、家族様の希望、本人の 希望に添えるように都度話し合っている。また、契約 時にも終末期に関する指針を説明している。 (外部評価) 法人のバックアップを受けながら、重度化や終末期の ケアを実践している。管理者は、看取りの経験から家 族の理解や協力の必要性を痛感しており、日頃から家 族と話し合いを密にしている。また、毎月行っている 内部研修のテーマの中にも、健康状態の把握、緊急時 の対応、介護技術等を取り入れ、看取りに関するケア の質を高めるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命講習を定期的に行い対応出来るようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防署員立会いによる避難訓練を行っている。また月1回防災ミーティングを行い自主避難訓練を行っている。地元消防団の協力を得るようにしている。 (外部評価) ビルの3階と5階にあるホームのため、災害については日頃から特に気を配っている。年間の防災ミーティング計画を立て、消防署と連携を密に取り、屋上までの避難訓練や、防災備品のチェック等を実施している。地域との交流を深め、地域の協力を得られるように取り組んでいく予定である。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様への声掛けには、安全な動作になるように気をつけ人格を尊重して対応している。 (外部評価) ホームでの生活も年数を経過し、車いすを使う利用者も増えているが、一人ひとりの思いを理解し、それぞれできることをしてもらいながら、誇りやプライバシーに配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何事も自分で決定出来るような声掛けを行うように努めている。できない事は少しのヒントを与えて助けてあげる事もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のペースに合わせて、又、利用者の体調なども考えて支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の来た衣服を着てもらい季節に合った物を身につけるようにしている。又、2ヶ月に1回ヘアカットも行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の出来ること得意な事はして頂きながら一緒に行っている。	
			(外部評価) 食事は「楽しく」をモットーに、笑顔で会話の多い食事をしている。身体レベルの低下により準備等の手伝いができる利用者は少なくなっているが、材料の下準備や片付けなどをお願いしている。5階のユニットは、一対一の介助が必要な方が半数以上であるが、それぞれのペースに合わせた援助をしながら、他の利用者にも笑顔で声をかけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、水分摂取量を記録し把握出来るようにしている。食事の形態にも工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声を掛け誘導、介助を行っている。義歯は洗浄剤を使用して清潔を保つようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを記録し誘導行い、失敗の無いように一人ひとりに合った支援をしている。	
			(外部評価) 身体レベルの低下によりおむつを使う利用者が増えているが、利用者それぞれの排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄してもらえよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄の状態を記録し便秘にならないよう、運動や水分摂取を個々に行って予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望を聞きに入浴の順番を決めるなど対応している。	
			(外部評価) 利用者の希望に添って、午前と午後に分けて、担当職員を決めて入浴している。利用者ごとに入浴日を決めているが、入りたい・入りたくないなど、利用者のその時々思いにも柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 休息は自由に出来るようになっており体調に応じて休息を取るよう声掛けしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 主治医の説明を受け確認しながら行っている。副作用や用法な全員が周知は出来ていない。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの力に合わせて役割分担したりそれぞれの好みに応じて気分転換していただくように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物や季節に応じて外出している。洗濯物を外へ干したり、花の水やりを行うなど、外の空気に触れるようにしている。	
			(外部評価) 車いす利用者が増え、外出にはボランティアや家族の協力が必要なため、以前より外出の機会が少なくなっている。車いす用体重計が無いため、近隣の老人保健施設に測定に行く機会を利用してホーム周辺を散歩したり、スーパーでの買い物やドライブ、行事での外出等を楽しむなど、戸外に出かけられるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持つことの大切さは理解しているが、所持をしている利用者は居ない。買い物で財布からお金を出す事はして頂くようにしたい。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 暑中お見舞いや年賀状を出してやり取りをしている。電話は番号を職員が押し話ができるように支援している	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 生活感が出るように身近な物を置いている。季節に応じて壁面飾りをするなどしたりカーテンやブラインドで調節するよう心掛けている。	
			(外部評価) ビルの中にあるホームであるが、内に入ると家庭的な雰囲気のある空間となっている。3階と5階はそれぞれに雰囲気は異なるが、居心地良く過ごせ、季節感も感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファには気の合う方同士で座り過ごされている。カーテンで仕切ったりと配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族様の協力により馴染みの物を持参して頂いて写真など飾りに工夫して居る	
			(外部評価) それぞれの身体状況に合わせて、使いやすいベッドにしたり、本人が落ち着いて過ごせる使い慣れた物が置かれている。家族が訪問しても居心地良く過ごせ、日頃の生活がわかるように、写真や援助内容の掲示もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレまでの位置を線や張り紙で工夫した居る。手すりの配置や通路のスペース等に注意して自立した生活が送れるようにしている。	